



みながんばくん

シュンジャクウシってなんだろう

1 校歌でウシを歌っている？

本校の児童ならだれでも知っている「三永小学校校歌」。その歌い始めは、次の通りです。

♪しゅんじゃくうしの ひらかれた♪

シュンジャクウシ？ ウシ？ いえいえ動物ではありません。これは、古い言い方で、シュンジャクという人への^{そんけい}尊敬の気持ちを表しているのです。

それでは、シュンジャクとはどういう人なのでしょう。三永小学校の校歌に名前が残されるほど^{そんけい}尊敬されているのはなぜでしょうか。

2 シュンジャクの生い立ち

シュンジャクは、藤原春鵠（ふじわらしゅんじゃく）という名前の人です。

^{ふじわらしゅんじゃく}藤原春鵠は、^{てんぽうがねん}天保元年（1830 年）4 月に上三永の医師の家に生まれました。藤原家の人々には、勉強がよくでき芸術の才能がある人が多く、全国の学者や芸術家、政治家と交流がありました。そして、医者として地元の人たちの病気を治していたので、^{そんけい}尊敬されていました。

^{ふじわらしゅんじゃく}藤原春鵠も、医者になるために長崎で勉強をしました。特に^{でんせんびょう}伝染病を防ぐ^{しゅとう}種痘という医学を研究して、上三永に帰ってきました。

3 上三永のシュンジャク

そのころ、^{てんねんとう}天然痘という病気が、死者をたくさん出す^{でんせんびょう}伝染病として、^{おそ}恐れられていまし

た。藤原春鵲は、22歳の時（1852年）、郡役所に願い出て、上三永を含む賀茂郡全体に無料で、自分の研究してきた種痘を行いました。

次の年、藤原春鵲が23歳の時（1853年）、嘉永の大飢饉という災害が起きました。

農作物が収穫できず、地域の人々は飢えに苦しみました。藤原春鵲は、地域の人々が食べ物を手に入れられるように、お金を貸し出しました。貸し出したことにしましたが、それは人々が、施しを受けたという負い目を感じないための配慮でした。のちに人々がお金を返そうとしても、決して受け取りませんでした。

藤原春鵲が暮らしていたころは、どの家にも、電気やガスはありませんでした。人々は、食事を作る時も、明かりをともし時も、部屋を暖める時も、落ち葉や木を燃やしていました。藤原春鵲は、自分の家に伝わってきた山林を、だれでも自由に入って良いことにし、村人が落ち葉や木などの燃料に困らないようにしました。

また、道を作ったり広げたりするときには、それらの山林だけでなく、田畑でさえ寄付をして人々を助けました。

31歳の時（1861年）には、また飢饉が起きました。（文永の飢饉）この時には、家の蔵にあったお米を、地域で困っている人々に配って生活を助けました。

4 軍医となったシュンジャク

36歳の時（1866年）、江戸幕府と長州藩の戦い（長州征伐）が起きました。

藤原春鵲は手伝ってくれる人と一緒に広島に行き、3か月間滞在して、戦いで傷ついた人々を治療しました。

その後は、広島藩^{ひろしまはん}の命令で、新しくできた広島藩^{ひろしまはん}の戦闘部隊^{せんとうぶたい}の医長^{いちょう}となりました。広島藩^{ひろしまはん}の軍隊^{ぐんたい}には明治2年（1869年）まで勤め^{つと}めました。広島藩^{ひろしまはん}はその働きをほめて、1870年に名字帯刀^{みょうじたいとう}を許^{ゆる}しました。

5 帰ってきたシュンジャク

江戸時代が終わり、だれでも自由に仕事を選んだり勉強したりできる時代になりました。

43歳の時（1873年）、上三永に帰ってきた藤原春鶴^{ふじわらしゅんじゃく}は自分でお金を出して、地域の人々に勉強を教える施設^{しせつ}「格物館」（かくぶつかん）を上三永に作りました。

同じころ、下三永には「九思館」（きゅうしかん）という勉強のための施設^{しせつ}もできました。

この二つは、4年後（1877年）4月に、それぞれ上三永小学校、下三永小学校となり、正式^{せいしき}に地域の子供たちの勉強の場となりました。

藤原春鶴^{ふじわらしゅんじゃく}は、脳卒中^{のうそうちゅう}で身体や言葉が不自由になった自分の父親^{かいぶ}の介護^{つと}にも努めました。

父親^{きぼう}が希望すればどこへでも籠^{かご}に乗せて連れて行き、満足するまでやさしく親孝行^{おやこうこう}しました。

藤原春鶴^{ふじわらしゅんじゃく}の親孝行^{おやこうこう}は有名になり、54歳の時（1884年）には、国から緑綬褒章^{りよくじゆほうしょう}という勲章^{くんしょう}が与えられました。

藤原春鶴^{ふじわらしゅんじゃく}は、明治29年（1896年）10月23日に数え年67歳で病気のために亡^なくなりました。

5 シュンジャクの建てた学校

上三永小学校と下三永小学校は、その後、名前をいろいろと変えながら、第2次世界大戦

の後も存続そんぞくしました。そして1957年（昭和32年）6月、二つの小学校は統合とうごうされ、今の三永小学校ができました。

三永小学校の校歌は

♪しゅんじゃくうしの ひらかれた♪ （春鵲大人の 開かれた）

のあと、次のように言葉が続きます。

♪れきしもふるい かくぶつと （歴史も古い 格物と）
きゅうしのおしえ うけついで （九思の教え 受け継いで）
そのなは みながしょうがっこう♪ （その名は 三永小学校）

6 記憶に残るシュンジャク

上三永の地域には、藤原春鵲ふじわらしゅんじゃくに感謝かんしゃと尊敬そんけいの気持ちを表す記念碑きねんひや絵馬えまが残されています。

孝子春鵲碑（こうししゅんじゃくひ）

築地神社

春鵲孝養絵馬（しゅんじゃくこうようえま）

築地神社

藤原春鵲碣（ふじわらしゅんじゃくいしぶみ）

藤原春鵲墓所

藤原春鵲碩徳碑（ふじわらしゅんじゃくせきとくひ） （位置不明）

※ 参考資料 「ふるさと学習 三永の歴史コース」 平成17年 監修 高田 稔